

Ⅲ. TOKYO PRO MARKETの概要

ここからは、まず、旧
TOKYO AIMのホームページと、TOKYO PRO Market
のホームページ及び上場
ガイドブック2017TOKYO
PRO Marker編を参照して、
TOKYO AIMの概要をご説
明します。



1. TOKYO PRO MARKETとは

① 旧TOKYO AIMの概要

i . 旧TOKYO AIMとは



すいません。
旧TOKYO
AIM
って何でし
たっけ？

はい、おさらい
です。
旧TOKYO AIM
とは、日本にで
きた新しい投資
市場のことです。



旧TOKYO AIMは、2009年6月に、東京証券取引所とロンドン証券取引所が共同で設立した新しい証券取引所です。東京AIMの『AIM』とは『Alternative Investment Market』の略称で、直訳すると、

- Alternative:慣習にとられない
- Investment:投資
- Market :市場

という意味です。

すなわち、既存の取引所の慣習にとられない**全く新しい発想の取引所を創造**することを目的として設立されました。

ii. 旧TOKYO AIMのミッション



何で新しい旧
TOKYO AIM
市場を作った
んですか？

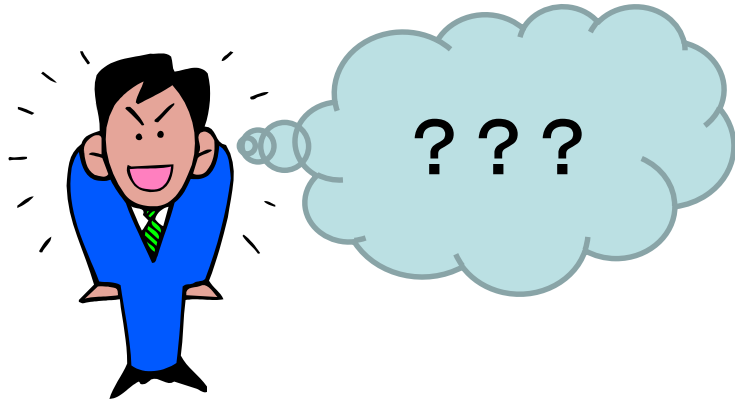
これも、おさらいで
すが、
新たな資金調達
の場を作り新しいビ
ジネスや産業を育
てるために、右のよ
うなミッション(使
命)のもとに作られ
ました。



● 旧TOKYO AIMのミッション

1. 日本やアジアにおける成長力のある企業に、**新たな資金調達**の場と**他市場にはないメリット**を提供するとともに、国内外の**プロ投資家**に新たな投資機会を提供すること。
2. 市場運営においては、企業をサポートする**指定アドバイザー(J-Nomad)**と、弁護士、会計士等の専門家からなる**コミュニティ**を形成し、秩序や規律の維持に努めること。
3. 国内外の幅広いセクターから魅力的な企業を誘致し、日本の**金融市場の活性化と国際化**につなげること。

iii. 旧TOKYO AIM上場のメリット(1/2)



ですよね。
上場準備～上場
申請～上場承認は
後ほど説明します
が、これらは、旧
TOKYO AIMに上
場するメリットとつ
ながります。



旧TOKYO AIMに上場するメリット
(出所)旧TOKYO AIMホームページ

- 機動性
- 経済性
- 柔軟性
- 国際性
- ブランド

iv. 旧TOKYO AIM上場のメリット(2/2)

● 機動性

旧TOKYO AIMでは、上場適格性の確認をJ-Nomadが中心となってしまうことから、上場申請から上場承認までの期間は原則10営業日となり、また、監査証明が必要な期間も最近1年間と短縮されています。

● 経済性

四半期開示や内部統制報告書が不要であることから、上場コストを抑えられます。

● 柔軟性

上場のための数値基準がないことなどから、様々な企業等の上場が可能です。

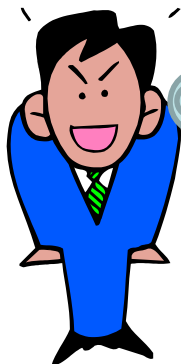
● 国際性

日本語および英語での情報公開が可能であり、また、日本会計基準だけでなく、国際会計基準、米国会計基準を採用することができます。海外企業にとっては翻訳コスト等が不要となり、日本市場へのアクセスが格段に容易になります。

● ブランド

上場により知名度・信用力が向上し、優秀な人材の確保や、新たな事業展開につながります。

v. TOKYO AIMの活用法



あとは、ミッションの3. で、想定している「国内外の幅広いセクターの魅力的な企業」って何を想定しているんですか？

旧TOKYOAIMのホームページでは具体的に旧TOKYO AIMへ上場する企業として右のような例を示しています。



	国内企業	外国企業	
国内事業	<p>研究開発型企業 成長性の高い企業 中小企業等</p>	<p>事業会社のノンコア事業および子会社</p>	<p>日本で事業展開する外国企業</p>
海外事業	<p>プロジェクト型ファイナンス</p>	<p>MBO・再生ファンド等により非上場化した企業</p>	<p>海外合併企業・事業等</p>
	<p>日本企業の海外現地法人が上場</p>	<p>アジア向けインフラファンド</p>	<p>アジアに進出した日本やアジアの合併企業等</p>